

実力向上講座（硬筆）

第十四回

（硬筆）

【第十四回】「硬筆書写の基礎・基本とその応用」

—漢字楷書『字形の整え方』その十—

文教大学文学部講師
本誌編集委員
米本 美雪

◇はじめに

前回は、左右二つ（偏と旁）で構成される複合文字の字形の整え方（組み立て方）について解説しました（第四十二項～第四十五項）。

今回は引き続き、左右二つで構成される複合文字と、さらに、左・中央・右部分の三つで構成される複合文字の字形の整え方（組み立て方）について解説します。

それでは左記の手順にて学習していきましょう。

◎学習手順

1、①～④の△文字例について、それぞれの改善点を記入例を参考にして書いてください

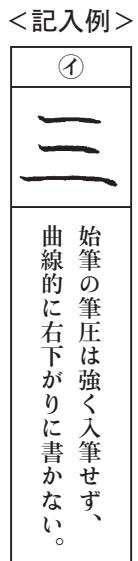
（下記の記入例を参照）。

2、各文字の改善点と、字形の整え方の解説を確認してください。

3、解説内容に留意しながら、各文字のなぞり書きとまとめ書きを行ってください。



△文字例 改善点



△文字例 改善点

字形の整え方

四十六、右部分（旁）の最終画が左払いは、左部分（偏）の下部より下げる場合

□改善点

①右部分「ㄅ（さんづくり）」の最終画左払いの終筆は、左部分の下部より上げて書かない。

□解説

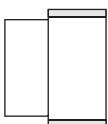
本誌前月号で解説済みの、右部分の縦画が他画を貫く場合の組み立て方と同様に、右部分の最終画が左払いの場合もパターンII（パターンIは前月号に掲載）の組み立て方になります。

パターンIIの文字の組み立て方

（右部分網掛けの高低は小差あり）

●右部分の最終画が左払いの文字例

「移」「沙」「砂」「杉」「拂」「珍」「妙」など



これらの文字の中から、特に散見される△文字例を図1に示しますので、参照してください。

図1 △文字例



字形の整え方

四十七、右部分（旁）が左右の払いで終わる場合は左部分（偏）の下部より上げて書く。

右部分の左払いの方向（本誌令和三年十、十一月号「字形の整え方」第十六、二十項を参照）や長さに留意して、「書いてみよう」を行ってください。

※書いてみよう 「形」「移」「沙」

なぞり書き まとめ書き

沙	移	形
沙	移	形
沙	移	形

□改善点
○第八、九画の下部は左部分「禾（のぎへん）」の下部より下げる書かない。

□解説

一月号「字形の整え方」第十八、二十一項を参考照）や、左右の払いの高さに留意して、「書いてみよう」を行ってください。

※書いてみよう 「秋」「級」「後」

なぞり書き まとめ書き

本誌前月号で解説済みの、右部分の最終画が曲がりの場合の組み立て方と同様に、右部分が左右の払いで終わる場合もパターンIII①②の組み立て方になります。

パターンIII①②の文字の組み立て方
(右部分網掛けの高低は小差あり)

●右部分が左右の払いで終わる文字例

※

〔飲〕〔駅〕〔快〕〔級〕〔後〕〔収〕〔汰〕

〔鉄〕〔徒〕〔板〕〔複〕〔放〕〔紋〕など

〔例外・左部分を小さく書く〕〔映〕〔吸〕

〔硬〕〔次〕など)

※前月号十三、十四頁の同図形も同様に訂正（右部分の網掛けを拡大）いたします。

これらの文字の中から、特に散見される△文字例を図2に示しますので、参照してください。

図2 △文字例



右部分の左払いの方向（本誌令和三年十、十一月号「字形の整え方」第十六、二十項を参照）や、左右の払いの高さに留意して、「書いてみよう」を行ってください。

□改善点
(ハ)左部分「口（くちへん）」は右部分の「未」の中心線より低めに書かない。
(二)右部分の「口」は左部分「矢（やへん）」の中心線より高めに書かない。

③	④	⑤
(二)	(ハ)	味
知	口	味

後	級	秋
後	級	秋
後	級	秋

□解説

字形の整え方

四十八、左部分（偏）に「口」がある場合は、右部分（旁）の中心線より高めに書く。

左部分の「口」を、右部分の中央に書いている図3のような△文字例を多く見受けますので、古典例とあわせて参照してください。



四十九、右部分（旁）に「口」がある場合は、「鳥（とり）」です。



※「和」の部首は「口（くちへん）」ではなく「鳥（とり）」です。

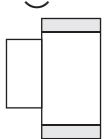
次に、左部分（偏）を小さく書くパターンIVの組み立て方の文字例を部首ごとに示します。

また、左右の高低に留意して、「書いてみよう」を行ってください。

ここからは、三つ（左、中央、右）の部分で構成される複合文字について解説します。

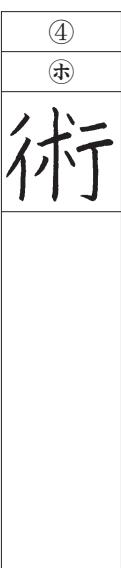
パターンIVの文字の組み立て方 (右部分網掛けの高低は小差あり)

様々な部首の文字例



※書いてみよう「味」「鳴」「知」「場」「暗」なぞり書きまとめ書き

④ 术 「術」



△文字例 改善点

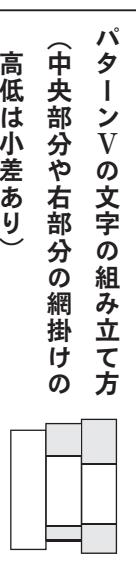
○改善点

④ 第三画（左部分）、第五画（中央部分）、第十画（右部分）の下部はそろえて書かない。

□解説

字形の整え方

五十、三つの部分で構成される複合文字は、二つ（偏と旁）で構成される複合文字よりも幅を狭め、中央の下部は左右の下部より上げて書く。



パターンVの文字の組み立て方
(中央部分や右部分の網掛けの高低は小差あり)

- 中央部分の最終画が右上払いの文字
「掛」「御」「衝」「倒」「働」「仰」など
- 中央部分の最終画が右上払い以外の文字
「湖」「測」「附」「例」など
(例外・左部分を小さく書く「凝」「暇」など)

これらの文字の中から、特に散見される△文字例を図5に示しますので、参照してください。

図5 △文字例

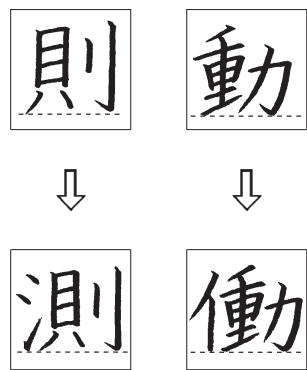


図5の△文字例が示すとおり、三つの部分で構成される複合文字では、右二つ（中央、右）

の部分の字形を整えて書くことが肝要です（文字例「卸」→「御」・「到」→「倒」・「付」

→「附」・「列」→「例」など）。文字例のように、右二つの部分が一つの文字として成り立つ文字が多いことから、まずは、右二つの部分の字形の整え方を確認したうえで書くように心がけてください。

なお、「倣」「緻」「徹」「倣」などは前出の

「字形の整え方」第四十七項により、右二つの部分に差異が生じます。また、左部分と中央部分の上部の高さについては、「湖」や「御」のように中央部分の上部に縦画や左払いがある場合

合は、左部分よりやや高めに書きます。一方で、「倒」や「例」のように中央部分の

上部が横画の場合は、左部分よりやや低めに書きます。字形の整え方と、三つの部分の高低に留意し、「書いてみよう」を行ってください。

※書いてみよう 「動」「例」

なぞり書き まとめ書き



—まとめ問題にチャレンジ—

次の平仮名を漢字に直し、文字の組み立て方に留意して□内に書いてみましょう。

(1) 診	△	(4) 結	△
(2) 校	△	(5) 学	△
(3) 均	△	(6) きんこう	△
衡	△	きんこう	△
(4) 婚	△	(7) じゆ	△
街	△	じゆ	△
(5) 樹	△		

前回と今回の二回にわたり、左右の複合文字の高低について解説しました。左右の字幅は解説しませんでしたが、反りや曲がりなどの強調する画がなければ、画数に応じて広狭を判断して書いてください。

次回は、漢字楷書の字形の整え方の最終回となります。複合文字について、より詳細に解説します。